

会議録

会議名	平成29年度第2回 八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会	
日時	平成30年2月21日(水) 午後7時～8時40分	
場所	八王子市役所 本庁舎 804会議室	
出席者氏名	参加者	荒井富雄、石川敏之、落合隆、澤昌秀、西村南海子、古谷純
	事務局	小柳悟(都市戦略部長)、立川寛之(都市戦略課長)、今井明(都市戦略課主査)、荒船翔哉(都市戦略課主事)、興梠翔大(都市戦略課主事)
	その他市出席者	小山等(総合経営部長)、小浦晴実(市民活動推進部長)、豊田聡(子ども家庭部長)、守屋和洋(都市計画部長)、橋本徹(産業政策課長)
欠席者氏名	伊藤史子、中庭光彦、沼崎明大	
議題	1. 開会 2. 八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について 3. その他 4. 閉会	
公開・非公開の別	公開	
非公開理由	—	
傍聴人の数	なし	
配付資料名	資料1 八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略 第1章「人口ビジョン」改訂案 資料2 八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略 第2章「総合戦略」改訂案 資料3 事前質問項目 資料4 参加者名簿 資料5 「八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会」開催要綱	
会議の内容	別紙のとおり	

1. 開会

《新規参加者紹介》

【事務局】

（参加者の紹介及び挨拶）

2. 八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について

《説明》

【事務局】

（配付資料1～3についての説明）

《意見等》

【荒井氏】

- ・施設等の利用について、近年は事故が起きたら行政の責任にする傾向が強くなり、これにより行政が何もできなくなっているのではないかと感じる。遊具施設の利用等においても、撤去するのではなく、自己責任を明確にした上で遊んでもらうのが良い。
- ・農地の活用について、農業法人による事業の規制緩和が必要。行政は地産地消を推進しているが、生産側が追い付いていないように感じる。個人の農家では限界があるため、法人化を進めるべきではないか。
- ・上川の里特別緑地保全地区については、規制が多く活用できないのが現状である。規制緩和ができれば、魅力的な場所となる。

【石川氏】

- ・杏林大学が移転となり、中央大学も都心への移転を検討している。人口減少により大学の定員割れが進んでいるようだが、人口ビジョンについて、大学の移転も考慮しているのか。
- ・p.25にある「卒業後の八王子市への定住意向」について、54.2%が「住みたくない、または住まない予定」と回答していることへの分析が、十分でないと思う。
- ・若者が集まりやすい映画館・音楽施設などの文化施設が八王子駅周辺にはない。充実すべき。

（事務局から説明）

- ・人口ビジョンには大学の移転については要素として入っていないが、大学ごとに経営戦略は異なり、八王子キャンパスを拠点化し投資している大学もあり、都心回帰がメインストリームとは認識していない。各大学と市が連携して事業を行っていることや、学生が活躍できる場があるなど、キャンパスが八王子市内にあることの存在意義を大学に知っていただくことが重要だと考える。

【都市計画部長】

- ・八王子駅周辺のまちづくりとしては、八王子駅南口の医療刑務所跡地を活用して「憩いライブラリ」や「郷土資料館」等の複合施設を建設する計画を進めている。若者が多く集える環境を整備していく。

【澤氏】

- ・人口推計の再推計の際として、純移動率の値に低下が見られたとのことだが、それではなぜ値が低下したのかを分析するべきではないか。
- ・KPI（重要業績評価指標）の必要性を再考すべき。数値管理が目的になっては意味がない。

- ・リニア中央新幹線に関連する施策が総合戦略に記載がないのはなぜか。

(事務局から説明)

- ・リニア中央新幹線の開通に伴う取り組みについては、相模原市や近隣市とプロジェクトを立ち上げ検討しているが、現時点では具体的な事業として動いていないため、記載していない。

【西村氏】

- ・総合戦略で一番大事にしているものは、KPI を管理することか。

(事務局から説明)

- ・総合戦略は、まち・ひと・しごと創生法に基づき、人口減少対策を行っている施策をまとめたものである。KPI は、総合戦略に掲げる施策を実施することで、どう成果が上がったか市民に説明責任を果たす役割がある。

【西村氏】

- ・総合戦略の各施策の記載内容を見ると、各所管の事業が縦に分断されているように感じる。例えば、56 ページの「切れ目のない支援」としているが中高生の視点がない。ネウボラの記載もない。

(事務局から説明)

- ・ネウボラについては、追記する。

【古谷氏】

- ・八王子市内には研究施設が多くあり産業のポテンシャルがあると思うが、全体として繋がっていない印象を受ける。例えば、アメリカのシリコンバレーのようにエリアとして魅力を高めていく必要があるのでは。
- ・八王子市の MICE 都市戦略とは何か。

【産業政策課長】

- ・東京都が実施する産業交流拠点整備の計画をきっかけとして、八王子市も商工会議所と連携し MICE を推進していくことにした。東京都とタイアップしながらイベントの誘致を進めている。

【古谷氏】

- ・KPI については、企業でも 10 年ぐらい前から始めているが、徐々に数が増え、その管理に忙殺されるため、増加した分を減らすようにしている。KPI に優先順位をつけるとともに、増やしたら減らすことも考えるべきである。

【落合氏】

- ・川口物流拠点の整備だが、就労者は会社の近くに居住したい意向があるが、川口地区については居住者が少なく、働き手が少ないことが課題。企業誘致と人材確保、空き家の活用など、複合的に対策を検討すべき。
- ・MICE の推進について、誘致成功件数の KPI が 7 件となっているが、どの程度（規模）のイベントを想定しているのか。

【産業政策課長】

- ・総合戦略の計画期間が平成 31 年度までであり、産業交流拠点が整備されていないことから、オリンパスホールとエスフォルタアリーナをメインにした展開を考えている。オリンパスホールは飲食できないことが欠点となっているため、学会を中心に展開し、エスフォルタアリーナでのスポーツ大会の誘致を重点的に取り組んでいる。エスフォルタアリーナでは 5,000 人程度の規模のイベントを開催できる。

【荒井氏】

- ・各施策の優先順位の設定が必要と考える。持続可能な社会を目指すのであれば、子育て世代の支援にターゲットを絞るべき。例えば、14歳までの世代を持つ保護者の市民税を減免するとか。予算が不足する分は、行財政改革で費用をねん出する。
- ・八王子市として子育て世代に、これだけのことができるかと打ち出さないと、八王子市で子育てしていくという気持ちにはならないのではないかと。

【子ども家庭部長】

- ・待機児童対策、財政的な支援がどこまでできるかは考えていきたい。子どもの成長に関する情報を一つにまとめるマイファイルの取り組みを進めていくことや、自立支援にもつなげていきたいと考えている。

【西村氏】

- ・総合戦略は資料にあるような形式での記載では、施策が羅列されているだけで優先順位がわかりにくい。キャッチフレーズがあると良いと思う。

【澤氏】

- ・これからの施策展開するためには横の連携が重要。例えば、企業主導型保育は、産業と子育ての部署が関わってくる。

3. その他

《説明》

【事務局】

- ・本日いただいた意見を参考とさせていただき、総合戦略の改訂を行っていく。

4. 閉会